

佑 啓

ゆうけい

発行 者
社会福祉法人 佑啓会
理事長 里見 吉英
〒290-0265
千葉県市原市今富 1110-1
TEL 0436-36-7611
FAX 0436-36-7612
編集者 広嶋委員会

水を得て魚

飯田 俊男

「よし、じゃ競争だ！負けた方が生ビールおごるんだぞ。」一年の離れた後輩と職場近くのプールで仕事が終わってから泳いだ時の一コマである。

「小学校の時、自分、水泳の選手だったんですよ。まさか、課長に負ける訳ないじゃないですか。」と自慢気に話すが、泳ぎには少しばかり自信があったがさすがに30代前半の男と40代半ばのオヤジの勝負となると無理があるかなと不安もよぎる。「向こう側でどっちが早いかわかるぞ！」ともう一人の後輩に声をかけて、よし、じゃ、いくぞ！よいい、どん！



小学生の時は、よく学校のプールで泳いだ。毎日毎日クラスメイト数名で真つ黒になつて泳いだ。「静小学校は今年度の猿島郡大会で絶対に優勝するぞ！」と担任の先生が休みもなくずっと夏休み期間中の練習に付き添つてくれた。

猿島(さしま)郡の静(しずか)小学校。「猿の島かい。田舎くせえな。」と素直に就職した当時、長浦

が奮きたかった。頭のいい子、スポーツの得意な子にだいたい先生は目が向く。そしてイケナイ子は、イケナイ見本としてダシにされる事が時としてある。こんな事もあった。小3の時に担任の先生が「造つた粘土細工は、町の展覧会にみんな出展するし、町長から賞状が貰える」と。制作中に、良い感じだねって珍しく褒めてくれたので、待ちきれずに「母ちゃん、オレ、はじめ賞状もらうぞ」って報告をしてしまった。結果、自分の作品だけが展示されなかった。もちろん賞状も貰えなかった。もしかしたら先生が間違つたんじゃないかと思つて、先生に恐る恐る聞いた。「あ、あんなの、出せる訳ないでしょ。ねえ、みんな！」って笑われた。そうですよ！って自分も笑つてその場を繕うしかなかった。悔しかった。一生懸命やつただけに。この先生は今でも先生じゃないと思つてゐる。顔も見たくない。

でも、この水泳の先生は、褒めて育ててくれた。水泳も最初は全く駄目だった。だけどセンスのあるヤツだけじゃなくて、苦手な生徒にも最後まで教えてくれた。怒るのもみんなと同じように怒つてくれた。いつもどんじりの自分に、明日もちゃんと練習来いよ！って声をかけてくれた。それが何より嬉しかった。



障害者就業・生活支援センターを受託した事で、最近はずいぶんの方が相談に見え、関連してふる里学舎しぜん工房(旧法授産施設)とふる里学舎きせつ館(就労移行・就労継続)を就労までの過程の一つとして利用される方が多くなった。

就職という目的がはっきりしているから利用者に勢いを感じるとは言うものの、現実的には、そんなにスムーズにいかない方もいる。

時間と共に、初めの頃の勢いも薄れ、本人も親も諦めムードを漂わせている。そんな時に、「君の夢は、なんだっけ。その夢の実現に向けて頑張ろうよ。今は辛いけれど、今を越えれば何かいい事あるよ。」とあの時の先生の言葉を思い出して、相手には響かない。うまくいかない原因の多くは、私を含めた職員自身の力量にある。何か一つでも良い。利用者が自信や自慢できる事、それを引き出す力が不足しているんだと頭を悩ます。



そういえば先日、千葉県の障害者福祉協会の施設長・事務長研修で、ある講師が人事管理について話していた。20代の職員に期待しても駄目だ。仕事にはならないうえ、育てる期間なのだ。一所懸命育てて、力がある者が30代でようやく使えるようになる。ああ、そうなんだと思つた。30代で使えるようになったかどうかはわか

らないが自分も確かに20代はものにはなつていなかっただろう。ちなみに80代で仕事出来るヤツはその後もそれなりの仕事をすると言つていた。

いろいろと考えたが、やっぱり地道に苦勞する事、汗水垂らして働く事の大変さ、お金を稼ぐことの大変さを実感してそれを教えていくしかない事に気づく。

時には怒つて、時には褒めて、頑張れよって支えるしかない。要は利用者も職員も同じである。そして職員には、この福祉の道を仕事として選んだ時の純粋な気持ち思い返してもらふしかない。どう生きていくかのマニュアルはない事をわかつてもらふしかない。

おや、随分遅いじゃねえか。

「おい、随分遅いじゃねえか。」後輩との勝負は結局、オヤジが勝つた。大差での勝利である。約束なので、その夜はたくさん部下におごってもらつた。と書きたい所だが大人げないので、折半にした。酒がうまかつた。前半は、もちろん私の自慢話で終わった。後半は、仕事の話になり、へえ、こんな事までこいつ考えていたんだなんて話も聞けて良かった。「今日は楽しかったです。また、お願いします。おやすみなさい」とタクシに乗り込む後輩の姿には遅しさを感ずる。きちんとオツキアゲをしてきている。時間は午前2時を過ぎている。



「お前、本当にバカだな。そんな夜遅くまで。仕事に影響するだろう。番出勤だぞ。ま、遅れちゃいけないけど、職場に泊まつたみたいだからえんだから。」と昨夜、勝負を挑ん

できた後輩が、朝から直属の上司に怒られている。そのあとトイレで会つて「おい！俺と一緒に仕事、言つておえだろ？な」の問いに「あ、言っちゃいました」とあっさり。ああ。

と言うよりも、嫌われ役をきちんと果たして、職員教育をしつかりと行つてこの上司に頭を下げないといけないのだから。ちなみに私は理事長からも褒められたことは一度もない。

実はこんな感じで、四十代になつた自分は、モノにはなつていない。研修の講師的に言えば、おそらくそのまま良い仕事も出来ずに定年を迎えるのだろうか。

「だけどそんな事にはならない。お前なら出来る。年なんか関係ない。いつかは認められるようになってやる」と前向きに自分に言い聞かせている内は、大丈夫だと信じている。年を重ねても、みつともなくても、誰からも評価されなくても、頑張っている自分自身を見てもらふしかない。

もうすぐ4月。新しい利用者、職員が来る。教える事にブレがあったらいけないと、今の職員で、研修会を3月に行つて意思統一を図る。なんてことだが、こういう事をやるお前には基本的なスタンスが全員の、あの時の先生のよう、に「分け隔てなく一人ひとりを大切にしよう」と持つて接する事が出来るように。(ふる里学舎しぜん工房施設長)

バリカラノテガミ

昨年9月下旬、私は一週間、家族旅行でバリへ行つた。俗に言う“リフレッシュ休暇”をもらつてだ。しかも譜先盤方、同僚ともに快く送り出してくれる……。

「親父、9月で定年やろ！家族みんなんで休み合わしてどっか行こか！去年正月：久々の一家団圓の席で、兄貴がそんなことを言つたが家族は両親・兄夫婦・私・弟の6人、各々が東西津々浦々に居る構えている。」定年祝いや！いつもバラバラなんやし、どうせ行くなら一週間くらい休み取つて海外行こう！「ムリムリ。そんなことを思ひながらも、干葉に帰つた私はダメ元で、兄貴がこんなことをやがてるんすで」と理事長に話してみた。「おう！家族は大事にしろ、リフレッシュ休暇として行つてこい……」とねえ、このクソ忙しい時期に「を聞かぬかい言葉だつた。そんな制度があつたことを思い出すのに少し時間がかかる。その言葉つて大企業によくある、まとまつた休みがもらえる制度じゃ……。リフレッシュ休暇をよぎつたが、次の瞬間「有り難く頂戴します……」と書いていた。諸先輩方からは「いいねえ、このクソ忙しい時期にや」と快く送り出してもらいながら、5泊6日のバリ島旅行が決まつた。

旅行前、定年祝いだから両親の旅費は子でも出し合おうという。勝ルを兄貴が決めようとしていた。勝手に決めるなど異議を申したところ親父からの「遺産に影響する」の一言で、筆快く出し合った。そんなルーの下、莫いお金を払うも、6時間間のフライトで人生初、日本の反対側に降り立った。

ジアのインドネシア共和国に属し、季節は小学校の社会で習ったと思われるサバンナ気候、大きく雨季と乾季に分かれている。日本、中国、オーストラリア辺りの客が目立つ。歴史と信仰の島と、パンフレットに書いてあったが、そんなことは今はいいまですはりフレッシュ休暇の意味を汲み取るため、遊ぼうと心に決めた。挨拶代わりにバリの舞踊芸術見学。魅入る人もいたが、ストリーパーがよくわからない。もういい。市街地散策。上司や同僚へのお土産選別に四苦八苦。もういい、飽きた。次に海を制すべくスキューバダイビング。水深7mの地点で耳抜きが上手く出菜




ず、耳に異変を感じたのでやめた。チキンと呼ばれた。さらには、空を制すべくバンジージャンプ。高い金を払って、45m上で決心がつくまで6分かかって飛んだ。飛んだのにチキンと呼ばれた。皆は飛ばなかつたにもういい、オレは陸で生きる。最後に、修行のため寺院巡り。宗教に興味はないが、日常とは全く異なる文化に触れ、これは意外に面白かつた。

現地の人は、氣さくで人見知り
をしない。陽氣に話しかけてくる。ガ
イドのおじさんもまた、バリの樂し
さを必死に伝えてくる。これは仕事
だから仕方がない。にしても、比較
すると日本人は閉鎖的に感じる。
相談業務に携わる者として、話しや

すい環境は自分から作るものだ

肌で感じ、見習うべき点は多かった。但し、市街地のお土産屋の店員は獲そべりながら客寄せをしている人も……日本を見習って欲しいものだ。



い。寒い地域にバリは元々多い。温暖化は似合うが、この島の辞書にそんな言葉はあるだろうか。ガイドのおじさんに聞いてみた。「サンゴと空が泣いている」と言う。異常気象や地球温暖化の影響で、バリ島のサンゴ礁が減少しているし、天気一つを見ても雨季と乾季の区別がはっきりしなくなっているらしい。温暖化対策、出来ることから始めるべき。明日から自分もエコバッグにもよう。

何はともあれ、空よし！海よし！
天気よし！！職場の皆には悪いが、
痛つて仕事するのがイヤになるくらゐ
い南国を樂しんだ。因みに、ススキ
バダイビングの時、耳に感じた異
変：帰国後、氣になつたので病院
を受診したところ、鼓膜が破れてい
た。「さまあみろ」諸先輩方のそんな
声が聞こえてきそう。当病病院通に
でバリ旅行の余韻に浸り、この月で
閉治。理事長以下、いやさこの一
週間は特に忙しかつたよ」と快く職
場復帰させてくれた職員の皆様、あ
りがとうございました。ロクなもので
買つてこなかつたけどこんな土産話
で堪忍して下さい。



（支援員 本郷宏治）

二十歳の私

今年度も5名の方が「ふる里学舎」から旅立っていきました。単身、グループホーム、家族との同居等、生活拠点は様々ですが、皆さん「自身の夢、目標に向かって生きいきと生活」しています。

今回は、そんな5名の中から、グループホームでの生活を始めてちょうど1年を迎えようとしている濱真那美さんにグループホームでの生活、将来の目標などについてレポートしていただきました。

私は約三年前の冬に父の別荘會に入所しました。その理由は、家族とのいざなひが甚だしく、父が不幸な事件が大に原因でした。父が父で愛ひの……私がかんてすれば家族とはなれずにすんだら……」と初めの頃は毎日そんな事を考へながら生活をしていました。そしてその家族から逃げ出してしまつた自分が大それたでした。

入所しては、何うの間に覺醒で生活した。毎日朝飯から逃げ出して守れた自分がいやで、いやでたまにまげん生じた。時には同じ覺で生活する覺下に待つておたつてしまふことがありました。

そんな中、會の機關がなくなると、母なれたと云うに住んで自立を目標と

ないかと聞かれました。最初はよくわかって居ましたが、だんだんア
マアバートな話が出て来たので、
自信がなくなつたので、あつた
といふ話です。

実事は施設の中に於ける訓練機で、自立生活に向けた支援を受けていた。そして、市岡市東部に於ける更生回生訓練機につづいた。その二つの生活は回生がきついていた私を変えてくれる様な、とても楽しい毎日でした。毎日張明と一緒に命の尊厳を大切に

難をもたず、みづみづにな
まじりだ。

なへハ、一ツ一ツをいたし、時には一瞬に數つをいたし、由留とケコバをいたし、に響らしてゐる由留とケコバをいたし、
 本當の服装の機に生活をしてゐる
 た。

昨年4月からワルーフホームでの生活に変わりました。層間は寺社の館に換ってワルーフ材料で洗濯物は分けてしています。キミでてやいやなでて、いっぱいありますが、エキををらえるようになり自信がつきました。

今、私は二十二年、二〇歳で、二十二年
 な節目を迎えます。今、母上様を想ひ
 して、私一人に纏うスカーフを贈る事にな
 り纏います。母上様は留聲機で歌のテープに
 私の言葉をこれから書き込んで残ってい
 たいと願っています。

湯 野 邦 義



寧那美

4月より市原市泉台にケアホーム泉台(定員5名)が開所します。これで「ふる里学舎グループホーム」は住居7箇所の定員は34名となりこの春新たに6名が入居予定です。


入所施設を退所し、グループホームやアパートなどで生活する方は年々増加しています。その全ての方々が安心して暮らせる環境を整え、それぞれの夢や希望が叶うよう、しっかりとサポートしていきたいと思います。

NHK歳末たすけあい
義援金のお知らせ

この度、千葉県共同募金会から
ふる里学舎
(製氷機の設置)
ふる里学舎しぜん工房
(製氷機の設置)
ふる里学舎和田浦

(テーブルセット・ソファー)
の三事業所にそれぞれ二十万円の助成金を受け、右記の内容で整備しましたことをご報告致します。

ふる里学舎やしぜん工房では利用者の食事場面や給水時に使用させていただきます。また、和田清については利用者のくつろげる場所としてデイルームに置かせていただきます。



広報委員は施設内外の様々な景色から写真を撮り、記録に残すことも業務の一つ。

編集後記

先日、美香農地に出掛けると本以上ある梅の木に花が咲き始めていました。桜と違って梅は咲きずも散り方もゆっくりだそうで、小春な春の訪れを感じた瞬間でした。それから春の移り変わりを感しながらフラインダーを覗きシャッターをす！

春の予感と共に佐賀六十八号をお届けいたします。

(宮崎 理)



編集後記

(宮崎 理)